

ROKEN いばらき

第68号

2026.2.1

一般社団法人 茨城県介護老人保健施設協会



君も一緒に泳ごうよ(特選)

写真提供 (一社) 常陸太田市観光物産協会

目次 Contents

- 特別寄稿 シンガーソングライター 石井 竜也さんからのメッセージ…………… 2
- 茨城県福祉部 長寿福祉課 課長あいさつ・茨老健からのお知らせ①…………… 3
- 功労者表彰および永年勤続者表彰 各賞受賞者代表あいさつ…………… 4・5
- 専門家レポート『エビデンスに基づく誤嚥対策について』
美浦中央病院リハビリテーション科 言語聴覚士 浅沼 誠 氏…………… 6・7
- 企画1 リハビリ専門委員会レポート…………… 8・9
- 企画2 介護老人保健施設の広報活動の実態について アンケート結果報告…………… 10・11
- 県内他団体のご紹介 『公益社団法人 認知症の人と家族の会』…………… 12・13
- スタッフからの一言 [さくら日立・シオン]…………… 14
- 歌手 城 南海さんからのメッセージ・茨老健からのお知らせ②…………… 15
- 企画3 令7年度各専門委員会レポート・研修会実績報告…………… 16・17
- 施設紹介 [博純苑・こすもぴあ・つくばリハビリテーションセンター・そよかぜ]…………… 18・19
- 会員施設一覧・編集後記…………… 20

特別寄稿

シンガーソングライター

石井 竜也さんからメッセージをいただきました。



石井竜也・プロフィール

1959年生まれ。茨城県北茨城市出身。高校卒業後、画家を目指し上京。'85年にデビューしたバンド“米米 CLUB”でボーカル/MCを務め、中心メンバーとして楽曲の作詞・作曲、ステージセット、コスチュームなどバンドを総合的にプロデュースし、「浪漫飛行」や「君がいるだけで」などのヒット曲を生み出す。映画監督、オブジェ創作、空間プロデュースなどを含め、音楽活動を軸に'97年よりソロ・アーティストとして活動中。音楽活動に加えて「大阪 HEP FIVE」などの空間プロデュース、愛知万博「愛・地球博」レギュラープログラムの総合プロデュースなどを務める。'01年9・11のアメリカ同時多発テロをきっかけに、'02年から愛と平和を願うアート・インスタレーション「GROUND ANGEL」を主宰し、自身のオーケストラコンサートシリーズ「EARTH MIND」などでは、沖縄・首里城火災や能登半島地震支援などのチャリティー活動を継続的に行っている。'25年はデビュー40周年イヤーを迎え、石井竜也ソロ・米米 CLUB 共に全国ツアーの開催やアルバムリリースも行い、多方面に渡り活躍中。
オフィシャルサイト：www.t-stone.com

茨城県介護老人保健施設協会の皆さま、こんにちは、石井竜也です。

今回、故郷茨城ということで、寄稿させていただくことになりました。

僕は、茨城県北茨城市の大津港という小さな港町で生まれ育ち、高校を卒業し上京してから、芸術を本格的に学びました。40年以上、アーティスト活動を続けてきましたが、その源流を辿ると、やはり親父の影響が大きかったと思います。厳格な祖父とは違い、僕の親父は”ムーミンパパ”のようにとっても穏やかな性格でした。僕は少年時代から地元では浮いており、かなりな問題児だったと思いますが(笑)、親父にはほとんど怒られた記憶がなく、いつも描いていた海の絵でも、合唱団に入っていた歌でも、とにかく褒めて伸ばして育ててくれました。親父は若い頃に俳優を目指したこともあったので、僕の芸術活動も理解してくれていて、一言で言ってしまうと、一番最初のプロデューサーは親父だったと思います。どこでも階段の一步を上がるというのは、かなり勇気があることだと思うのですが、親父がいたことでいつも自然に上がっていったんです。振り返ると、それはとても幸せなことだったなと思います。今もカバンにはいつも親父の写真を持ち歩いて、苦しい時は力をもらっています。まだ母は健在ですので、少しでも長生きしてもらいたいですね。



あいさつ



茨城県福祉部長寿福祉課
課長 大嶋 弘章

明けましておめでとうございます。

茨城県介護老人保健施設協会の皆様方には、日頃から高齢者保健福祉の向上並びに介護保険制度の円滑な運営に多大なご協力をいただき、厚くお礼を申し上げます。

さて、我が国では、世界に例のないスピードで少子高齢化が進行しており、総人口の約3割を65歳以上の高齢者が占めるなど、本格的な超高齢社会を迎えています。

本県におきましても、昨年10月時点の高齢化率は31%を超え、さらに、2050年には40%に達すると予測されております。

今後も介護を必要とする高齢者が増加する一方、介護の担い手確保が難しくなる中、高齢者の方々が、尊厳を保ち、安心して暮らすことができる社会を実現していくことが、ますます重要になってまいります。

特に喫緊の課題となっております介護従事者の処遇改善につきまして、令和8年度には、3年ごとの介護報酬改定を前倒しして臨時改定することにより、処遇

改善加算の拡充などが行われる予定になっております。

まだ詳細は明らかになっておりませんが、加算率の引き上げや対象職種の拡大などを通じて、介護に従事される方々の賃金や職場環境について、さらなる向上が図られるよう期待したいと思います。

県におきましても、介護報酬改定に先立って、賃上げ等に係る経費を補助する事業をはじめ、物価や賃金の上昇が続く中、介護事業所が円滑に事業を継続するために必要な経費を支援する事業を実施してまいりますので、ぜひ、ご活用いただきたいと思います。

介護老人保健施設は、地域において医療機関と在宅とをつなぐ重要な施設として、利用者のニーズに応じた質の高いケアの提供に取り組んでおられます。

引き続き、高齢者が住み慣れた地域で自立した生活を送るための拠点施設として、役割を果たしていただきますようお願いいたします。

結びに、貴協会の益々のご発展と、会員の皆様のご健勝を祈念いたしまして、挨拶といたします。

お知らせ ①

★顧問弁護士による『無料』電話相談窓口の運用中★

顧問弁護士による『無料』電話相談窓口の運用につきまして、ご理解とご支援をいただきまして誠にありがとうございます。また、登録がお済みでない施設様は事務局にて登録手続きを行っておりますので、ご連絡をいただきますようお願い申し上げます。なお、登録ならびに登録後の相談料は**無料です**。お困りごとやご相談、作成書類の法的なチェック（リーガルチェック）などにご活用いただければ幸いです。

功労者表彰および永年勤続者表彰

※受賞のみなさま、誠におめでとうございます。

功労者表彰候補者一覧表 11施設 11名

施設名	職名	氏名	勤続年数	施設名	職名	氏名	勤続年数
おおあらい	事務長	富田 朝子	20年	つくばケアセンター	介護福祉士	塩入 幸雄	21年
大宮フロイデハイム	相談員	関根 正子	19年	マカベシルバーパートピア	介護職主任	吉井 久恵	21年
ごぎょうの里	介護福祉士	飯村 和弘	23年	みがわ	介護支援専門員	赤津 智恵	16年
さざんか荘	介護職員	青木香代子	16年	みなと苑	ケアマネージャー	羽石 弘子	14年
シルバービレッジ	介護長	小櫛 純之	12年	レイクヒルひぬま	看護師	高島 弘子	21年
すばる	介護員	沼 由佳	13年				

永年勤続者表彰受賞者一覧表

◆ 25年勤続 9施設 21名 ◆

施設名	職名	氏名	勤続年数	施設名	職名	氏名	勤続年数
ごぎょうの里	相談員	渡辺 陽子	25年	平成園	看護師	片倉 陽子	25年
ごぎょうの里	事務	浜崎 裕司	25年	平成園	介護福祉士	横山 睦子	29年
しろかね	介護福祉士	塚田 香織	25年	平成園	介護福祉士主任	渡辺 香織	26年
しろかね	管理栄養士	吉原 秀子	27年	平成園	理学療法士副施設長	上野 晃	33年
しろかね	介護支援専門員	中村 恵美	25年	平成園	介護福祉士	菊地たい子	34年
しろかね	介護支援専門員	坂田 待子	25年	平成園	介護福祉士	鈴木 緑	34年
つくばリハビリテーションセンター	看護師	田口久美子	27年	みがわ	准看護師	長谷川裕子	26年
つくばリハビリテーションセンター	介護士	倉持 直輝	26年	みなと苑	介護員	菊池しず子	28年
つくばリハビリテーションセンター	介護士	吉澤 珠美	25年	ルーエしもつま	准看護師	神藤真智子	25年
つくばリハビリテーションセンター	介護士	本田 妙子	25年	レイクヒルひぬま	介護福祉士	濱村 あや	26年
				レイクヒルひぬま	看護師	岡本 和子	26年

◆ 10年勤続 28施設 115名 ◆

施設名	職名	氏名	勤続年数	施設名	職名	氏名	勤続年数
いちご苑	介護福祉士	江橋 栄子	10年	くるみ館	作業療法士	佐藤 夏季	10年
いちご苑	介護福祉士	福田 祐樹	10年	くるみ館	介護福祉士	小室 萌佳	10年
おおあらい	介護長	江橋慎太郎	20年	くるみ館	介護福祉士	渡辺 涼太	10年
おおあらい	介護主任	鈴木 喜崇	10年	ごぎょうの里	作業療法士	細野 修平	15年
おおあらい	介護福祉士	伊東 裕恵	11年	ごぎょうの里	准看護師	篠崎 正恵	15年
おおあらい	介護福祉士	斉藤 実穂	15年	さざんか荘	作業療法士	笹沼 重芳	15年
大宮フロイデハイム	介護職	小野真由美	10年	さざんか荘	介護職員	永井 真美	13年
かすみがうら	介護支援専門員	菅井由美子	10年	春秋園	准看護師	徳原 好美	10年
かすみがうら	介護士	村上 雄大	10年	春秋園	介護福祉士	高橋 優	10年
かすみがうら	看護師	小森 弥生	13年	春秋園	介護福祉士	石毛 翔汰	11年
勝田	看護師	吉田 晃子	22年	春秋園	介護福祉士	伊東 絵美	11年
勝田	看護師	山中 啓子	22年	春秋園	介護福祉士	中山 圭一	20年
勝田	介護福祉士	磯崎 恵美	20年	しろかね	介護福祉士	中島 雄基	10年
協和ヘルシーセンター	作業療法士	齋藤めぐみ	12年	しろかね	介護福祉士	野村 良男	10年
協和ヘルシーセンター	作業療法士	鈴木 一恵	11年	スーペリア360	師長 正看護師	永長 美紀	10年
協和ヘルシーセンター	理学療法士	大山 望	11年	スーペリア360	理学療法士	佐藤 綾	10年

老健いばらき

施設名	職名	氏名	勤続年数	施設名	職名	氏名	勤続年数
すばる	看護師	金戸 瑞穂	10年	みがわ	看護師	岡崎美江子	18年
すばる	介護員	中村めぐみ	10年	みがわ	介護士	中崎 芳美	18年
すばる	支援専門員	斉藤まりな	10年	みがわ	准看護師	宮本 詩子	18年
すばる	事務員	香山 聡子	10年	みがわ	作業療法士	小林さゆり	17年
田尻ヶ丘ヘルシーケア	歯科衛生士	久保倉由里子	12年	みがわ	作業療法士	山田 昌宏	17年
田尻ヶ丘ヘルシーケア	介護員	鈴木 花菜	12年	みがわ	介護福祉士	鈴木 晶子	17年
田尻ヶ丘ヘルシーケア	支援相談員	鈴木みゆき	12年	みがわ	理学療法士	荒金 直規	16年
つくばケアセンター	介護福祉士	大貫 勝弘	12年	みがわ	介護福祉士	大川喜代子	16年
つくばケアセンター	介護福祉士	上田 祐司	11年	みがわ	介護福祉士	篠原 綾子	16年
つくばケアセンター	介護福祉士	岡野 由佳	12年	みがわ	介護福祉士	佐藤 文子	15年
つくばケアセンター	介護福祉士	佐野 和恵	11年	みがわ	介護福祉士	大高美恵子	15年
つくばケアセンター	介護士	小林 充	11年	みがわ	准看護師	岸 幸子	15年
つくばケアセンター	理学療法士	神保 敦史	10年	みがわ	介護福祉士	小池 栄	15年
つくばケアセンター	作業療法士	山口 愛	12年	みがわ	介護福祉士	柴田まり子	13年
つくばケアセンター	看護師	平賀 翔太	11年	みがわ	管理栄養士	香野 暁子	12年
つくばリハビリテーションセンター	看護師	仁平美代子	19年	みがわ	看護師	永山 恵美	12年
つくばリハビリテーションセンター	介護士	角田 浩二	18年	みがわ	事務員	倉内亜貴野	12年
つくばリハビリテーションセンター	介護士	小倉 孝行	24年	みがわ	介護福祉士	金澤三智代	11年
つくばリハビリテーションセンター	介護士	高須友香里	18年	みがわ	介護福祉士	藤山 典子	11年
つくばリハビリテーションセンター	介護士	倉持 瞬	16年	みがわ	介護福祉士	益子良太郎	11年
つくばリハビリテーションセンター	介護士	大塚 和江	22年	みがわ	薬剤師	松下 武彦	11年
つくばリハビリテーションセンター	介護士	秋田 結美	23年	みがわ	理学療法士	加藤 誠	10年
つくばリハビリテーションセンター	介護士	塚田 綾子	23年	みなと苑	介護員	阿部三輪子	12年
つくばリハビリテーションセンター	介護士	川原 由美	23年	みなと苑	介護員	高橋 純子	11年
つくばリハビリテーションセンター	介護士	角田 麻衣	19年	八郷プロバンス	准看護師	兵藤 澄世	10年
ひだまり倶楽部	介護福祉士	加藤 光昭	16年	八郷プロバンス	理学療法士	植松 寛	10年
ひだまり倶楽部	介護福祉士	鈴木恵利華	15年	八郷プロバンス	介護福祉士	斉藤 大貴	10年
ひだまり倶楽部	介護福祉士	小宅 貴広	13年	八郷プロバンス	准看護師	石井 咲子	10年
ひだまり倶楽部	介護士	加藤 順子	13年	八郷プロバンス	支援相談員	小口 優子	10年
ひだまり倶楽部	看護師	佐藤 郁美	12年	八郷プロバンス	介護員	谷中 美博	10年
ひだまり倶楽部	介護福祉士	稲川 佳代	12年	八郷プロバンス	介護員	宇田 直美	10年
ひだまり倶楽部	介護支援専門員	米木 俊介	10年	リヒトハウス北浦	介護支援専門員	井上 敬子	11年
ひだまり倶楽部	介護福祉士	齋藤 奈緒	10年	リヒトハウス北浦	調理師	西谷ますみ	11年
プラタナスの丘	介護職	茂垣 伸晃	10年	涼風苑	介護福祉士	菅野 和美	10年
プロスペクトガーデンひたちなか	介護福祉士	菅庭 知明	10年	ルーエしもつま	介護福祉士	飯島みき子	10年
平成園	調理師	遠藤 陽子	10年				
平成園	営業課	市村 栄一	10年				
マカベシルバートピア	介護職	鈴木 秀一	10年				
まくらがの郷	准看護師	高橋 寛昭	10年				
みがわ	介護支援専門員	鯉淵 望	20年				
みがわ	介護福祉士	梶山 達典	20年				
みがわ	介護福祉士	中崎 寿史	19年				
みがわ	介護福祉士	荒木 徳子	20年				
みがわ	介護福祉士	中川 寛美	20年				
みがわ	看護師	大原美恵子	20年				
みがわ	介護福祉士	川島まゆみ	19年				
みがわ	介護福祉士	磯部 亮子	19年				
みがわ	看護師	小川 桂子	18年				



専門家レポート

エビデンスに基づく誤嚥対策

医療法人美湖会美浦中央病院
リハビリテーション科 言語聴覚士
浅沼 誠氏

はじめに

令和6年度に実施された「介護施設利用者の摂食嚥下機能の維持・改善に向けた事例集等の作成に係る調査研究事業」の報告書（以下、令和6年度報告書）¹⁾は、介護老人保健施設（以下、老健施設）における誤嚥、誤嚥性肺炎、窒息の実態を把握する上で有益な資料である。同報告書によると、過去3か月間に誤嚥が発生した利用者が1人以上いたと回答した老健施設の割合は43.2%、誤嚥性肺炎は39.9%、窒息は9.4%であった。比較的短期間にこれらの事象が発生している実態を踏まえると、老健施設における誤嚥対策は喫緊の課題といえる。そこで本稿では、摂食嚥下リハビリテーションに従事する言語聴覚士（以下、ST）の立場から、エビデンスに基づく誤嚥対策を紹介する。ここでいう対策とは、防止策と対応策を包括する広義の概念であり、前者は誤嚥を防ぐ策、後者は誤嚥した場合の被害を抑える策である。本稿では誤嚥を①細菌誤嚥、②胃酸誤嚥、③食物誤嚥の3種類に分類し、紙面の都合上、それぞれに対する対策を3点に絞って紹介する。なお、各誤嚥のイメージについては図を参照されたい。細菌・胃酸・食物が喉頭へ侵入し（この時点では誤嚥でない）、声帯の間の空間（声門）を越えて気管内に入ることが誤嚥である（太い赤色の矢印）。

①細菌誤嚥およびその対策

細菌誤嚥によって生じる代表的な疾患は（狭義の）誤嚥性肺炎である。一方、広義の誤嚥性肺炎は細菌性肺炎以外の病態も含む（「成人肺炎診療ガイドライン2024」²⁾の定義はこの広義に該当する可能性がある）。本稿では、狭義の誤嚥性肺炎を対象とする。細菌は主に唾液とともに気道内へ流入する。つまり、誤嚥性肺炎の主な原因は唾液誤嚥であると考えられる。一般には「誤嚥性肺炎は食物誤嚥が原因」と捉えられがちだが、衛生管理された施設食そのものに病原菌が含まれることは通常ない。食物とともに細菌を誤嚥し誤嚥性肺炎を引き起こす可能性は否定できないが、リスクの主体はあくまでも「細菌」であり、「食物そのもの」ではない。禁食措置によっても細菌誤嚥は防げず、したがって誤嚥性肺炎を防ぐこともできない点に留意すべきである。

以下、細菌誤嚥の対策として、(1) 口腔ケア、(2) 嚥下訓練、(3) 栄養介入の3点を紹介する。

(1) 口腔ケア

複数の研究^{3) 4)}は、健康成人の一定割合が睡眠中に咽頭分泌液（唾液を含む）を誤嚥していることを報告している。これは、高齢で基礎疾患のある施設利用者にとって、唾液誤嚥を完全に防ぐことが困難である可能性を示唆している。とはいえ、唾液誤嚥があっても、唾液中の細菌量が少なければ誤嚥性肺炎のリスクは軽減可能である。2016年のメタアナリシス⁵⁾は歯科専門職が関わる口腔ケアによって、入院または施設入所中の高齢者における肺炎死亡率が有意に低下したことを報告している。老健施設と歯科の連携が重要である。

(2) 嚥下訓練

2024年のメタアナリシス⁶⁾は、急性疾患または重症疾患の嚥下障害患者において、嚥下訓練を実施した群の肺炎発症率が有意に低かったとしている。今後は、維持期（生活期）の症例を対象とした検証が待たれる。近年、高齢者向けの嚥下訓練法は「高齢者の発話と嚥下の運動機能向上プログラム」という形で体系化の試みがなされている。令和6年度報告書によると、老健施設における嚥下訓練の担い手はSTであることが多い。STを施設に配置することは、嚥下訓練の担い手を確保する上でも重要である。

(3) 栄養介入

「細菌を誤嚥させない・誤嚥しても細菌量を最小に」という観点だけでなく、細菌に対する個体の抵抗力という観点も重要である。とりわけ、低栄養は抵抗力低下のリスク因子と考えられる。高齢者を対象とした2017年のランダム化比較試験⁷⁾

浅沼 誠（あさぬま まこと）

1999年 日本福祉教育専門学校医療言語聴覚療法学科卒業。
同年、第1回言語聴覚士国家試験に合格。

2000年 医療法人美湖会に入職。元マロン工医療福祉専門学校
非常勤講師。
元沼南リハビリテーション学院（現在の千葉・柏リハビ
リテーション学院）非常勤講師。

『モンテカルロ法を用いた推定
基礎エネルギー消費量の多角的
解析～リハビリテーション栄養
のエビデンス構築にコンピュー
ター・シミュレーションを活用
する試み～』、『レーヴン色彩マ
トリックス検査（RCPM）の数
学的解釈～「RCPMレベル表」
の考案とその活用～』など、日
本言語聴覚学会を中心に学会発
表多数。



では、通常の口腔ケアのみを行った群に比べ、通常の口腔ケアに口腔内ふき取りと経口栄養補助食を併用した群で肺炎の累積発症率が低い傾向がみられ(17.7% vs 7.8%、 $p = 0.056$)、男性では有意差を認めた。栄養介入の重要性が示唆される。

②胃酸誤嚥およびその対策

胃酸誤嚥によって生じる代表的な疾患は「化学性肺臓炎」である。これは胃食道逆流や嘔吐によって胃酸が気道に侵入することで発症する。

以下、胃酸誤嚥の対策として、(1) 胃食道逆流症(以下、GERD)の治療、(2) 就寝時の頭部挙上、(3) 胃瘻を造設している利用者に半固形栄養剤の使用の3点を紹介する。

(1) GERDの治療

これは医師が診断・治療を行う。

(2) 就寝時の頭部挙上

2021年のシステマティックレビュー⁸⁾は、明確な推奨には慎重であるものの、就寝時の頭部挙上がGERDの症状緩和に有益である可能性を示唆している。組み入れ研究では、ベッド脚下へのブロック設置またはウェッジ枕を用いて頭部挙上が行われている。

(3) 胃瘻を造設している利用者に半固形栄養剤の使用

2020年のメタアナリシス⁹⁾で、胃食道逆流の有意な減少が示された。

③食物誤嚥およびその対策

食物誤嚥によって生じる代表的な疾患(および問題)は「びまん性嚥下性細気管支炎」および「窒息」である。前者は少量の食物誤嚥を反復することで、後者は食物などが気道を閉塞することで生じる。

以下、食物誤嚥の対策として、(1) 意識レベルの確認、(2) 姿勢の調整、(3) 食形態の調整の3点を紹介する。

(1) 意識レベルの確認

意識レベル低下時は誤嚥しやすいことが報告されている³⁾。食事の前に、意識レベルに問題がないかを確認する必要がある。安全な経口摂取を行う上で、求められる意識レベルはJapan Coma Scaleで0(清明)またはI桁(刺激しなくても覚醒しているレベル)とされる。

(2) 姿勢の調整

2024年のメタアナリシス¹⁰⁾は、顎引き姿勢(以下、chin-down)が誤嚥リスクを低減するとしている。エビデンスの質は劣るが、リクライニング位および完全側臥位の誤嚥防止効果も複数報告されている¹¹⁾¹²⁾。一方で、一般に「適切な摂食姿勢」として想起される体幹直立位での座位姿勢(以下、直立座位)に関しては、誤嚥防止効果を示す質の高い研究は少ないのが現状である。直立座位は、誤嚥リスクが高くない対象者に適した姿勢といえるかもしれない。直立座位で誤嚥が疑われる場合、まずchin-downを試みるのが推奨される。それでも改善しない場合、リクライニング位や(重度の場合は)完全側臥位の検討が必要になるだろう。いずれにしても、それらの適応は個別の嚥下評価に基づき判断することが望ましい。

(3) 食形態の調整

食形態については「日本摂食嚥下リハビリテーション学会嚥下調整食分類2021」という、国内で広く普及する指標が存在する¹³⁾。これを用い、対象者の嚥下機能に適した食形態を選択することが推奨される。令和6年度報告書によると、同分類は、回答のあった老健施設の87.0%で使用されていた。広く普及している一方で、誤解されがちな点として、刻み食は嚥下調整食には該当しないことに留意したい。また、同分類に該当する食形態では、汁物を含む水分には原則とろみを付けることが想定されている点にも留意したい。なお、筆者が実施した病院および老健施設における窒息実態調査¹⁴⁾では、「肉」「しいたけ」「ピーマン」「りんご」「パン」「おでん」「まんじゅう」「せんべい」「刻み食」「ミキサー食」「お茶」など、嚥下調整食を含む多様な食形態で窒息が発生していた。嚥下調整食の安全性を過信せず、万々に備えて吸引の準備を整えるとともに、ハイムリッチ法などの技術習得が必要である。

おわりに

誤嚥性肺炎を含むと推測される場合であっても、引用文献が「肺炎」と表記している場合には、引用箇所では原文の表記に従った。引用したメタアナリシスやシステマティックレビューの多くは、さらなる検証の余地に言及している。本稿の記述は確定的な結論を示すものではない。本稿では要点のみにとどめた箇所も多く、説明が不十分な点は否めない。不明な点などがあれば、筆者までお問い合わせいただければ幸いです。

1) 公益社団法人全国老人保健施設協会。介護施設利用者の摂食嚥下機能の維持・改善に向けた事例集等の作成に係る調査研究事業 報告書。2025。https://www.roken.or.jp/wp/wp-content/uploads/2025/04/R6_2.pdf
 2) 日本呼吸器学会。成人肺炎診療ガイドライン2024。2024。https://www.jrs.or.jp/publication/file/adult_pneumonia_2024v5.pdf
 3) Huxley EJ, et al. Pharyngeal aspiration in normal adults and patients with depressed consciousness. Am J Med. 1978;64(4):564-568.
 4) Gleason K, et al. Quantitative aspiration during sleep in normal subjects. Chest. 1997;111(5):1266-1272.
 5) Sjogren P, et al. Oral care and mortality in older adults with pneumonia in hospitals or nursing homes: systematic review and meta-analysis. J Am Geriatr Soc. 2016;64(10):2109-2115.
 6) Kuriyama A, et al. Dysphagia rehabilitation in dysphagic patients with acute or critical illness: a systematic review and meta-analysis. Dysphagia. 2024;39(6):1171-1182.
 7) Higashiguchi T, et al. Efficacy of a new post-mouthwash intervention (wiping plus oral nutritional supplements) for preventing aspiration pneumonia in elderly people: a multicenter, randomized, comparative trial. Ann Nutr Metab. 2017;71(3-4):253-260.
 8) Albarqouni L, et al. Head of bed elevation to relieve gastroesophageal reflux symptoms: a systematic review. BMC Fam Pract. 2021;22(1):24.
 9) Kokura Y, et al. Semi-solid nutrients for prevention of enteral tube feeding-related complications in Japanese population: a systematic review and meta-analysis. Nutrients. 2020;12(6):1687.
 10) Li M, et al. The effectiveness of chin-down manoeuvre in patients with dysphagia: a systematic review and meta-analysis. J Oral Rehabil. 2024;51(4):762-774.
 11) Park BH, et al. Effect of 45° reclining sitting posture on swallowing in patients with dysphagia. Yonsei Med J. 2013;54(5):1137-1142.
 12) Nagao K, et al. 急性期重度嚥下障害患者に対する完全側臥位導入による嚥下の変化。総合リハビリテーション。2020;48(6):567-572。
 13) 日本摂食嚥下リハビリテーション学会。日本摂食嚥下リハビリテーション学会嚥下調整食分類2021。2021。<https://www.jsdr.or.jp/wp-content/uploads/file/doc/classification2021-manual.pdf>
 14) Asanuma M, et al. 病院及び介護老人施設内における窒息の実態調査。言語聴覚研究。2014;11(3):270。

企画 1

リハビリ専門委員会レポート

委員長 中野 雄司

はじめに

我が国の総人口は、2025年9月15日現在、1億2320万人で、65歳以上の高齢者は3619万人となり、高齢化率も29.4%と過去最高となっています。増大する高齢者介護のニーズに 대응するため2000年に介護保険制度が創設されましたが、急速な高齢化と介護人材不足の深刻化により、制度運用や財源確保の重要性が増しており、介護保険制度の持続性や、サービス提供の質向上に大きな焦点があたっています。

介護保険制度において介護老人保健施設（以下、老健）は在宅復帰、在宅療養支援のための地域拠点となる施設、リハビリテーション（以下、リハ）を提供する機能維持・改善の役割を担う施設に位置付けられています。老健の基本サービス費類型は、平成30年5月時点と令和5年2月時点を比べると、超強化型7.8%→28.6%、在宅強化型9.0%→10.0%、加算型25.8%→31.6%、基本型51.1%→24.1%、その他型6.3%→5.7%と、超強化型を算定している施設は増加傾向にあり、在宅復帰支援が推進していることが分かります。また通所リハ、訪問リハは、利用者が住み慣れた場所で自分らしい生活を維持したり、自立した日常生活のために必要な支援を行うなど、老健は地域包括ケアシステムで重要な役割を担っています。

中野 雄司 (なかの ゆうじ)

2006年3月 帝京平成大学専門学校 理学療法科
 2006年4月 社会医療法人若竹会
 つくばセントラル病院
 法人内老健施設を中心に勤務
 2025年4月より事務部へ異動

主な資格
 登録理学療法士
 介護支援専門員



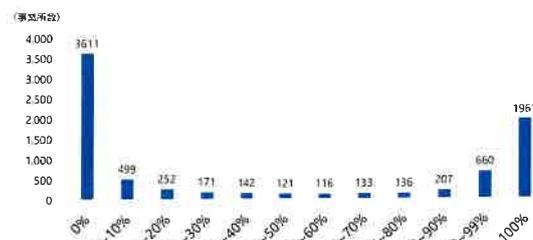
リハ専門職の役割の変化

介護保険制度制定後、診療報酬での疾患別リハの影響もあり、当初リハ専門職の役割の多くは直接的な介入が主となっていました。平成27年3月の「高齢者の地域における新たなリハビリテーションの在り方検討会報告書」の中で①個別性を重視した適時・適切なリハビリテーションの実施、②「活動」や「参加」などの生活機能全般を向上させるためのバランスのとれたリハビリテーションの実施（「身体機能」に偏ったリハビリテーションの見直し）、③居宅サービスの効果的・効率的な連携、④高齢者の気概や意欲を引き出す取り組み、など、マネジメントの重要性が述べられており、現在はリハビリテーションマネジメント（以下、リハマネ）や多職種連携強化と役割が多岐に渡ります。老健の超強化型、在宅強化型施設においては、リハマネが要件化され、通所リハにおいては、介護報酬改定のタイミングで要件の見直しや報酬見直しがされるなど、生活期のリハにおいてマネジメントは切り離せない業務とともに、リハ専門職にはなくてはならないスキルの一つでもあります。

通所リハにおけるリハマネ加算の算定率は、令和5年2月時点で、事業所内での算定率0%が3,611事業所、次いで算定率100%が1,961事業所と大きく2極化されており、まだ算定が十分に行っていない事業所が多いことが分かります。また訪問リハでも同様に令和7年5月時点で約7%と算定が伸び悩んでいます。医師の参加が難しい、リハ会議の負担増加などの理由はありませんが、多職種共同した支援が可能となり、質の高いリハビリの提供ができますので、事業所全体で算定を目指すことが重要です。

リハビリテーションマネジメント加算の算定率

■利用者全体のうちリハビリテーションマネジメント加算を算定している割合別の事業所数



●通所リハのリハビリテーションマネジメント加算の経過	
平成18年	リハビリテーションマネジメント加算の新設
平成24年	利用開始時の家屋評価が要件化
平成27年	リハビリテーションマネジメント加算Ⅰ・Ⅱ 加算Ⅱ⇒リハビリ会議の要件化
	リハビリテーションマネジメント加算Ⅰ～Ⅳ
平成30年	加算Ⅱ～Ⅳ⇒リハビリ会議の要件化
	介護予防リハビリテーションマネジメント加算新設
令和3年	リハビリテーションマネジメント加算A・B 加算Ⅰと介護予防の加算が包括化
	リハビリテーションマネジメント加算イ・ロ・ハ 口腔リハ栄養の一体的な取り組みの評価

科学的介護情報システム（以下、LIFE）へのリハ専門職の関り

令和3年度介護報酬改定からLIFEが開始し、今後の介護保険領域においてLIFEの算定・活用の有無はサービスの質向上や施設収益の増収の大きなポイントとなります。現在多くの加算でLIFEの提出・活用が要件となっており、今後もLIFEに絡めた要件や報酬の改定が予想されます。しかしどのようにLIFEを活用したら良いか苦慮されている事業所は多くあると思います。そこでリハ専門職の力の見せ所となります。なぜならばLIFEにおけるSPDCAサイクルはリハマネと同様であり、得られたデータを分析しエビデンスをもとにプログラムを立案することは、日々の業務で行っているからです。そしてLIFEの個々の要件だけを捉えるのではなく、ICFで各項目を捉えることで相互の関係性を整理することができ、活用へのイメージが湧きやすくなります。リハ専門職が中心となってLIFEを活用することは、今後の老健におけるリハ機能強化には不可欠であり、利用者様個々に合ったサービスを効率的かつ効果的な提供が可能となります。

●老健におけるLIFEに関連する加算一覧

入所	科学的介護推進体制加算(Ⅰ)・(Ⅱ)
	リハビリテーションマネジメント計画書情報加算(Ⅰ)・(Ⅱ)
	短期集中リハビリテーション実施加算(Ⅰ)
	褥瘡マネジメント加算(Ⅰ)・(Ⅱ)
	排せつ支援加算(Ⅰ)・(Ⅱ)・(Ⅲ)
	自立支援促進加算
	かかりつけ医連携薬剤調整加算(Ⅱ)
	栄養マネジメント強化加算
	口腔衛生管理加算(Ⅱ)
	科学的介護推進体制加算
訪問リハ	科学的介護推進体制加算
	リハビリテーションマネジメント加算(ロ)(ハ)
	介護予防通所・訪問リハの12月減算の免除に係る要件
訪問リハ	栄養アセスメント加算
	口腔機能向上加算(Ⅱ)

安定した施設運営に向けて

事務の視点からとなりますが、現在老健施設運営において、令和7年度介護経営実態調査で赤字施設は49.3%とされており、昨今の人件費の高騰や物価高は、さらなる大きな打撃となっています。その中で、リハ専門職は短期集中・認知症短期集中リハビリテーションなど出来高で収益を確保でき、かつ本来の老健機能である在宅復帰支援は、施設の収益増大に影響しています。先述しましたリハマネ加算やLIFEにおいても、利用者様へのサービス向上だけでなく経営的視点からも重要となります。リハ専門職の活躍は老健運営に大きく貢献できますので、さらなる加算取得に向けても積極的に活動いただけると幸いです。

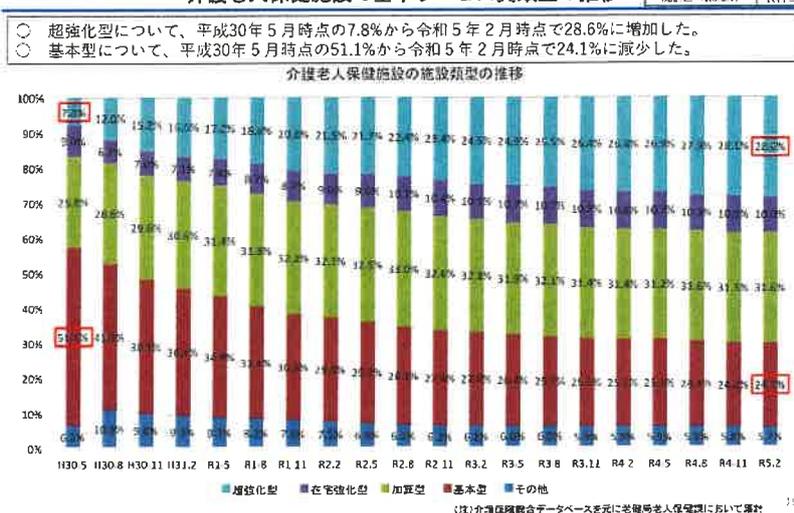
まとめ

地域包括ケアシステムの構築目標であった2025年が過ぎ、次は2040年問題に向けて厚労省で議論されています。2040年問題では人口減少、認知症や独居高齢者の増加、人材確保と地域共生社会の構築などが検討されており、リハ専門職も社会情勢に合わせた柔軟な対応が必要となります。超高齢化社会の中、様々な困難がありますが、一丸となって乗り越えていき、老健が地域にとって重要な役割を担っていけるよう頑張っていきたいと思います。

●参考資料

- 厚生労働省：介護報酬改定概要（平成18年度～令和6年度）
- 厚生労働省：介護給付費等実態統計（令和5年）
- 厚生労働省：介護給付費分科会（第229回）令和5年10月26日
- 厚生労働省：高齢者の地域における新たなリハビリテーションの在り方検討会報告書 平成27年3月
- 厚生労働省：令和7年度介護事業経営概況調査結果
- 内閣府：令和7年版高齢社会白書

介護老人保健施設の基本サービス費種類の推移



企画 2

介護老人保健施設の広報活動の実態について

茨城県介護老人保健施設協会会員施設を対象に、広報活動手段やターゲット、運用方法・課題等に対するアンケートを行いました。広報活動が多様化するなか、目的に合った手段を選ぶことが重要であり、この記事が各施設の広報活動のヒントとなれば幸いです。

アンケート回収数 41 施設

Q1 貴施設の広報活動の手段を教えてください。

- ホームページ 38
- SNS 17
- その他 2
- パンフレット・広報誌 36
- イベント開催・参加 15

Q2 上記手段のターゲットや運用方法、課題等を教えてください。

ターゲット・運用方法

- 広報委員会が中心となり、行事や活動状況、行事食等をホームページに毎月掲載している。
- SNS (Facebook・Instagram) を一般層をターゲットに広報委員会や各部署が投稿している。日常活動・イベント情報・求人を掲載。
- ホームページやSNSについては委員会で検討したものを再度事務長レベルで検討し地域向けに発信している。ホームページは2週間～1ヶ月に1回更新、Instagramは行事ごとになるべく更新期間を短くするよう努めている。
- 広報委員会にてご家族様へ向けて行事や日々の様子をInstagramに投稿している。各フロア毎に月1～2回担当し、施設として毎週投稿するようにしている。
- SNSを活用しイベント発信を行っている。レク委員長を決めて対応、プライバシーなどを含めた検討はリスク委員会で審議している。
- ご家族や地域の方々、ホームページをご覧の方に向けて、施設での活動内容（特にアクティビティ）をブログを作成し発信している。
- 施設内で多職種で構成される地域サービス委員会が主に広報を担当している。毎月の委員会にて内容を検討し、ご家族や地域向けに活動している。具体的にはInstagramを週1回以上の頻度で行事や活動内容を投稿、広報誌を年1回作成配布し、ホームページでも広報誌が見られるようにしている。
- 利用を検討している方やそのご家族に対し、パンフレットを窓口で配布している。入所・通所の相談員が営業でパンフレットを使用している。
- 利用者・ご家族宛に広報誌を広報委員会が作成し、施設掲示と請求書同封で配布。
- レクレーション・アクティビティ委員会を主体として、月ごとのイベント企画（施設内事業所合同）・運営を行っています。また、広報誌作成・SNSの情報発信や問い合わせ対応に至る活動も同委員会が担っています。構成メンバーは、入所・通所・リハビリ課の介護・セラピストとなっています。広報誌発送以外にブログ・インスタグラム・フェイスブックなどを活用し、来訪できないご家族が画像・動画で施設の取り組みをご覧いただけるように発信しています。
- 夏祭りや敬老会などの地域行事に参加し、サポートを行う。求人目的で就職説明会にも参加。

- 子ども食堂として「みんなの食堂」、介護予防教室として「いきいき大学」を毎月1回、地域の交流センターで開催。また、年に1回地域の方々も参加できるマルシェタイプのお祭りも開催している。ボランティアの受け入れも積極的に行い、実際に施設のことを知って頂く機会を増やしている。
- 地域貢献の目的で毎年季節ごとに地域へ向けて行事を開催しています。また、イベントのお知らせは自治会回覧、近隣のスーパーにポスター配布もおこなっている。

課題

ホームページについて

- 広報活動の効果判定が難しく方法があれば知りたい。ホームページの情報の更新がこまめにできていない。知ってほしいターゲット層（ご利用者の子供・孫世代）に届いているか分からない。
- 新着情報（ニュース）のページを開設しているが、休業日の周知や面会に関する情報などが中心で、施設のイベント情報や入所者・通所利用者の活動など、本来、ご家族や地域住民の方々などに対して行うべき情報の発進が不十分な状況。シニア層のホームページ利用への配慮が欠けている。表現方法の簡素化、読みやすいフォントサイズ、広めの行間、色彩のコントラストなどを意識したホームページの改修について検討していく。

SNSについて

- SNS更新に費やす人材やマンパワーが充実していないので取り掛かれていない。
- 写真や個人情報の確認に手間がかかり、発信リスクも大きい。内容が投稿担当者の判断に委ねられ、情報発信の質と安全性のバランスが求められる。
- 平日に毎日更新していますが、担当者は通常業務があるため、発信作業を業務終了後に行っており、負担となっている。

その他

- 新型コロナ以降は感染対策として、ご家族や地域の方の参加できるイベントの実施を見合わせている。通年を通して感染対策が必要な状況の中、各施設でどのような広報活動や取り組みを行っているのか教えてほしい。
- 現場の仕事との両立や、メンバー内での仕事の偏りがあるが、プロであるグループの広報室の力を借りることで、質が上がったり、負担が軽減できたりを感じています。
- ホームページ作成、パンフレット、広報誌を全て事務で作成しているが、専門的知識や技術があるわけでもなく四苦八苦している。専門業者に依頼することも考えたが、費用や融通がきかないこと、その他諸々の問題があり実現できない。
- 日々の業務が多忙のため、利用者様の日々の様子を写真に撮ることが難しく、利用者様の写真が少なく施設内の写真が多くなっていることが課題。
- 地域の研修や各専門職の職能団体の役員となって、施設職員個人の努力で活動することはあるが、能動的な活動とは言えない。

紙面の都合上掲載とならなかったご意見もありますがご了承ください。
ご協力ありがとうございました。

県内他団体のご紹介

公益社団法人
認知症の人と家族の会 茨城県支部

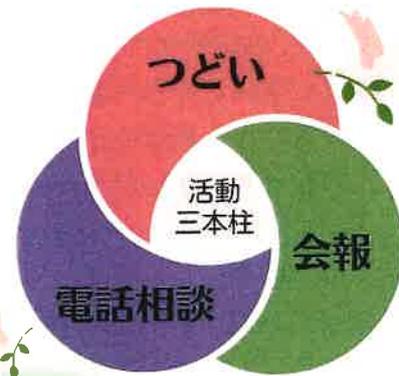
公益社団法人
認知症の人と家族の会 とは

「公益社団法人認知症の人と家族の会」は、「呆け老人をかかえる家族の会」として、1980年1月20日に結成されました。今年で46周年を迎えます。

認知症に対して医療も介護も福祉も関わりがほとんどない時代に認知症の人の症状に苦しみ悩んでいる家族に呼びかけた小さな新聞記事を見た介護家族90名が全国から京都の岡崎に集まり、会を結成したのが始まりです。

1994年社団法人認可、2006年「認知症の人と家族の会」に名称変更、2010年に公益社団法人に認可されました。

認知症に関心のある人ならどなたでも入会でき、現在、会員は約9,000人です。我が国では国際アルツハイマー病協会に所属する唯一の団体です。



理念

認知症になったとしても、介護する側になったとしても、人としての尊厳が守られ日々の暮らしが安穩に続けられなければならない。

認知症の人と家族の会は、ともに励ましあい助けあって、人として実りある人生を送るとともに、認知症になっても安心して暮らせる社会の実現を希求する。



ホームページ



てとてなび

活動

この理念のもと、「つどい・電話相談・会報」を活動の三本柱としています。「介護の社会化」を訴えつつ活動を進めてまいりました。過去には、介護保険法、共生社会の実現を推進するための認知症基本法の成立に寄与しています。3年に1度改正される介護保険法や、認知症基本法に基づき各自治体で策定されつつある「認知症施策推進計画」策定の動向にも注目しています。

会報「ぼ～れば～れ」には、全国からご本人ご家族が登場する他、介護、行政、医療、介護、産業、学術等様々な視点の情報が掲載されています。賛助会員様は会報にてご紹介いたします。

ホームページのほか、新しい情報サイト「てとてなび」も立ち上げ、Facebook・Instagram・X・LINEといったSNSでも情報発信、交流を進めています。

昨年6月には、各自治体の認知症施策推進計画に家族支援も取り入れていただきたく「認知症の人とともにある家族の権利宣言」を発出いたしました（次ページ）。11月には解説版も公開しています。

認知症の人と家族の権利宣言

私たちは、認知症になったとしても、介護する立場になったとしても、人としての尊厳が守られ、日々を穏やかに暮らし続けたい、という思いで1960年から活動してきました。

「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」(認知症基本法)ができて、私たちはいっそう、認知症の人、その家族や大切な人々が支え合いながら、人として生きがいを感じ、充実した毎日を過ごせるような安心して暮らせる社会の実現を求めていきたいと願っています。

認知症基本法は、私たちが長い間望んできたものであり、これにより認知症の人と家族への支援が充実していくことを期待しています。しかしながら、再輪となるべき家族への支援は、本人支援とは大きな隔たりを感じざるを得ません。認知症の人への支援と同時に、家族への支援が充実していく必要があります。

認知症の人と家族はそれぞれに自分で決める権利や、あらゆることに参加する権利を持っています。認知症の人と家族の権利が侵害されるような環境・社会にならないよう、そして誰もが人としての尊厳と権利が保障され、健康や幸福を追求できるよう、それらを支える制度や経済的支援、同じ経験を有する者同士が支え合う支援(ピアサポート)の推進が不可欠です。

そこで私たちは、家族への支援が充実することを願い「認知症の人とともにある家族の権利宣言」をつくりました。ここに、私たちの思いを全ての人に知っていただけるよう宣言します。

1. 家族一人ひとりの尊厳と人権が尊重されること

家族も認知症の人とともに一人の人として尊厳が守られ、自分の人生をあきらめない権利があります。それぞれの立場や気持ちで尊重され、大切にされる権利があります。

2. 家族がともに安心して暮らせる社会の実現を保障すること

家族が認知症の人とともに安心して暮らせる環境が必要です。家族は、それぞれ仕事を遊び、続けていく自由、生活を維持していくために経済的な支援を受ける権利があります。

3. 家族が必要な支援を受けられること

家族一人ひとりの状況に合ったサポートとして、必要なときに必要な支援を受ける権利があります。

4. 社会全体で支え合うこと

認知症の人とともにある家族の状況を、社会は正しく理解し、社会全体でケアを拒んでいくことを私たちは求めます。

5. 家族の経験が社会で活かされること

同じ経験をした者同士の支え合い(ピアサポート)は、社会全体としても大きな力になります。制度だけでは足りないところを補いあえる、認知症の人や家族の経験と知恵が活かされる社会をつくっていくことを望みます。

解説版



公益社団法人
認知症の人と家族の会

また、平日午後1~3時の電話相談、会報とともにお届けする支部報に加え、ホームページや各SNSで介護者の皆様とつながることのできる窓口を設けております。

皆様へ

認知症には様々な背景や症状があり、ご本人や支えるご家族のご事情も様々です。診断直後の空白の時間を作らないよう、社会資源の1つとして弊会をご活用

ください。かつて私自身も稀なタイプの認知症の母を貴会会員「なでしこ」様にお世話になる日々、会報を読み、つどいに参加し、母への対応を学んでおりました。

まずは私どもの輪に加わっていただけませんか。家族支援の拠点として、会員として、より一層のご支援を賜れましたら幸甚に存じます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

理事 茨城県支部代表 牧野 優子

茨城県支部の活動

現在は、全47都道府県すべてに支部がありません。茨城県支部は、41番目の支部として2003年に結成されました。現在の会員数は約120名です。

新しい認知症観のもと、認知症が自分事であることを県民の皆様へお伝えするべく2025年度活動方針の冒頭に

「No Ninchisho, No Life!」

と掲げ、活動を進めております。

貴会にもご後援いただき、毎年開催しております「認知症フォーラムinいばらき」をはじめ、事務所のある牛久市を中心に県南県西地域では活動の三本柱の1つ「介護者のつどい」や「認知症カフェ」、認知症マップを編む会を定期開催しております。

また、県域どこからでもご参加いただける「オンラインのつどい」や、出張つどい、出張講話、ブース出展など、全県域を視野に入れた活動に取り組んでおります。



公益社団法人
認知症の人と家族の会

電話相談 月~金 13~16時
029-828-8099

Tel/Fax 029-828-8089
mail ibaraki@alzheimer.or.jp



ホームページ



LINE公式
アカウント



Facebook



Instagram



YouTube

介護老人保健施設 さくら日立
理学療法士 古川雄樹

介護老人保健施設さくら日立は、「在宅復帰」という大きな目標に向けて、利用者様一人ひとりの残された機能の維持・回復を全力でサポートしています。

当施設には理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が在籍しており、身体機能の改善だけでなく、日常生活動作の維持・向上、嚥下や発声のリハビリまで、幅広い分野をカバーしています。医師・看護・介護・栄養・支援相談員など他職種との連携を密にし、総合的なチームアプローチを実践しています。

また、機能訓練の時間だけでなく、食事、排泄、入浴、歩行といった日常生活の動作そのものを重要な「生活リハビリ」と捉えています。専門的な視点から日常生活の動作を評価し、ご利用者様の残存能力を最大限に活かした介助方法や環境設定を提案・実践しています。

入所サービスに加え、通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションも展開しています。これにより、施設ご利用中から退所後の在宅生活まで、切れ目のないリハビリテーションを提供できる体制を整えています。ご自宅での生活に密着したリハビリ指導や、生活環境の調整のアドバイスも積極的に行い、安心できる在宅復帰・継続的な在宅生活支援をしています。

今後も「笑顔あふれる暖かく明るい生活空間」をモットーに、ご利用者様とご家族様の想いに寄り添いながら、個性を尊重したきめ細やかなサポートを心掛けていきたいと思っております。



介護老人保健施設 シオン
介護福祉士 松本弥生・角谷佐知子

介護老人保健施設シオンは平成7年に設立し今年で31年目になりました。病院併設という環境を生かし、医療・介護・リハビリ職が日常的に連携しながら運営している介護保健施設です。療養棟には100名の入所が可能で在宅生活を支える一環としてショートステイサービスも実施しています。また、デイケアは50名までご利用いただけます。身体機能の維持・向上や生活リズムの安定を目的としたリハビリテーションを行っています。レクリエーションについても集団体操と個別対応を使い分け、交流による刺激とその方らしさを尊重した関わりをもち意欲に寄り添った内容を心がけています。療養棟では夏には納涼祭、秋には運動会、その他敬老会やクリスマス会など様々な年間行事があります。日常では皆さんでワイワイ楽しみながらカラオケをしたり、風船バレーで汗をかいたり、折り紙で作品を作り飾りつけをしています。また、隣接する公園へのお花見散歩や地域猫とのふれあいなど、地域の中で日常を感じら

れる時間も大切にしています。こうした何気ない関わりが生活意欲や情緒の安定につながると考えています。当施設は太平洋と利根川に挟まれた立地特性を踏まえ、災害時を想定した備えにも継続的に取り組んでいます。今後も、医療・介護・地域との連携を大切にしながら、ご利用者様一人ひとりの目標に寄り添う支援を継続してまいります。



お知らせ 2



『わたし ^{きずき}城 ^{みなみ}南海は
茨城県老健協会のみなさんを
応援しています!』

～プロフィール～ アルバム / ツアー情報

平成元年 鹿児島県奄美大島生まれ。奄美民謡「シマ唄」をルーツに持つシンガー
2009年1月「アイツムギ」でデビュー

♥️【アルバム】2026年1月21日ニューリリース アルバム『ウタアシビ』

♥️【ニュース】ニューリリース アルバム『ウタアシビ』発売記念 直筆サイン
・コメント入りパネル展示&パネル抽選プレゼントキャンペーン

♥️【ツアー情報①】ウタアシビ 2026「春」開催
2/21(土)鹿児島・キャパるポホール
2/22(日)福岡・Gate's 7
3/7(土)大阪・心齋橋PARCO SPACE14
3/8(日)名古屋・ボトムライン
3/14(土)鹿児島奄美大島・アマホームPLAZA
マチナカホール(奄美市市民交流センター)
3/28(土)小樽・GOLDSTONE
3/29(日)仙台・LIVEDOME STARDUST
4/5(日)東京・大手町三井ホール

【ツアー情報②】ウタアシビ 2026「春」追加公演
4/19(日)東京・コットンクラブ

【イベント情報】城南海&扇谷研人デュオライブ4/12(日)新潟県新発田市・新発田市民文化会館



お知らせ
2

★令和7年度各専門委員会合同会議(各委員対象)★

令和8年3月17日(火) 14時から16時
ザ・ヒロサワ・シティ会館

企画 3

令和7年度各種専門委員会レポート・研修会実績報告

看護介護専門委員会

令和7年度の看護介護専門委員会では、2回の研修を開催致しました。

第1回目は、8/19に高橋いくこ先生(ivy care project 代表)を講師にお招きし、ZOOM研修を開催致しました。【接遇】をテーマに家族との関わり方を含めた内容でご教示いただきました。計25施設52名の方がご参加いただき、1人1人の職員が施設全体の印象となることや挨拶やコミュニケーションの重要性、身だしなみや規則を守ることの大切さについてお話をいただきました。すぐにでも現場に取り入れられる内容でしたので、ぜひ研修にご参加いただいた方々は、現場で共有して更なるスキルアップを目指していただきたいと思います。

第2回目は、10/16に塩野義製薬を通じて村上啓雄先生、残間由美子先生のお二人を講師にお招きし、現地とZOOMとで行うハイブリット研修を開催致しました。現地では17名、ZOOMでは25名の多職種の方々にご参加いただきました。

村上啓雄先生には【高齢者施設のクラスター対策について】を、残間由美子先生には【感染の予防と対応】をご教示いただきました。高齢者などの易感染リスクが高い施設等では重要となる内容で、とても勉強になる有意義な研修となりました。

各研修にたくさんの方々にご参加くださり、ありがとうございました。

今後とも、当委員会では各施設のスキルアップに繋がるような研修会を開催してまいりたいと思っておりますので、皆さまの研修会へのご参加を心からお待ちしております。

引き続き、ご支援の程をよろしくお願い致します。

看護介護専門委員会 委員長 西山 綾香



支援相談員専門委員会

令和7年度支援相談員専門委員会委員長を務めさせていただきました、介護老人保健施設すみれの飯島と申します。

本年度の支援相談員専門委員会では、2度にわたり研修の場を設けさせていただきました。事務局の方々をはじめ、役員、会員の皆様、ご協力ありがとうございました。

第一回研修においては、「取り組み」「連携」などのテーマを、グループごとに話し合ってくださいグループワーク形式で行いました。自分の所属する事業所とは異なる取り組み、やり方を学び、見識を深めるとともに、普段なかなか持つことのできない相談員間の交流の場を持つことができました。

続く第二回研修では、私たち相談員にとって最も身近なテーマの一つであるカスタマーハラスメントについて、深い造詣をお持ちである喜山志津香先生のご講義を拝聴しました。本来6時間ほどかけて行う講義を2時間ほどにまとめていただいたこともあり、かなり密度の濃い内容でした。

普段業務に追われて後回しになりがちな自己研鑽の機会をいただける専門委員会は、私たち相談員にとって大変得難い価値のあるものだと思います。来年度以降も、引き続きできるだけ多くの方に研修にご参加いただけるよう、ご協力お願いいたします。

支援相談員専門委員会 委員長 飯島 正之



栄養専門委員会

栄養専門委員会では第1回目の研修はZOOMで(株)フードケア様を講師に「嚥下のメカニズムととろみの正しい使い方」で実演を交えての講演で分かりやすい研修でした。

第2回目の研修はコロナ以降初めて現地のみで開催しました。講師にSOMPO ケアフーズ(株)栄養管理部部長の麻植有希子先生を迎え「栄養アセスメント強化加算について」「高齢者の多い基礎疾患の検査データの見方」の講演をしていただきました。先生からはミールラウンドでよく利用者を観察し、食事形態があっているかを確認することが大切である。また褥瘡がある利用者がいたら褥瘡部位の観察をすることも栄養介入する時に必要であると話がありました。検査データから推測される身体の状態でどのように栄養介入をしたかの説明があり、普段注目して見ていたデータの他にも目を向けるデータがあることを知り、検査データの見方について学びたいと感じました。研修ではグループに分かれ、実際に症例を用いて栄養アセスメントをし、栄養ケア計画書の作成を行いました、各グループの発表で様々な意見を聞き、有意義な研修となりました。

今後も栄養専門委員会では皆さんの参加したい研修を目指していきますので、是非多くの方に研修に参加してアンケートに答えていただき、それを参考に今後の研修内容を委員で企画していきますので、研修会への参加を宜しく願います。

栄養専門委員会 委員長 木村 靖子



事務専門委員会

令和7年は事務専門委員会の活動にご理解とご支援をいただきありがとうございました。

さて、令和7年は会員の皆様にとってどのようなお年になりましたでしょうか。個人でお立てになった目標を達成された方、また、一日一日を大切に過ごすことに力を注いだ方、それぞれに充実した一年になったかと存じます。当委員会では施設は人そのものであるとの考えに立ち、運営の中心にいる職員の方を育て、守る人事評価制度の研修会を開催、同時に各施設間の情報交換と課題の共有するプログラムを実施しています。

間もなく令和8年度を迎えることとなります。目の前では政府の打ち出された処遇改善施策の有効性ある実行などが控えています。また、足下ではICT強化を含む運営の生産性向上、これがもたらす経営の健全化や業態への人材の流入など取り組むべきことが山積している状況です。

当委員会でも病院医療と在宅医療介護の中間施設としての唯一無二の高齢者施設とそこに働く職員の皆様に少しでもお役立ち出来るよう活動をして参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

事務専門委員会 委員長 荒井 綾子



博純苑

博純苑は、眼下に広がる太平洋と足元に流れる花貫溪谷の清流、万葉にも詠まれた自然豊かな高萩市に位置する介護施設です。入所、ショートステイ、通所リハ、訪問リハの4つのサービスを通じて、ご利用者様お一人お一人の“自分らしい暮らし”を支えています。医療・介護の専門職が連携し、安心と笑顔に満ちた日々を提供することを目指しています。

昨年12月の経営体制刷新を契機に、博純苑は新たな方針のもとで組織運営を進めています。経営の一新はスタッフの働きやすさや業務改善を後押しし、施設全体の活力を高める大きな転機となりました。新しい体制のもとでチームワークをさらに強化し、職員一人ひとりが主体的に意見を出し合える環境づくりを推進しています。これにより現場の柔軟性と対応力が向上し、サービスの質も一層高まっています。



ホームページ URL
<https://www.hakujunkai.jp/>

また、博純苑では SNS を活用した情報発信にも力を入れています。施設の日常やイベントの様子、スタッフの取り組みを写真や動画で紹介することで、地域社会やご家族に安心を届けると同時に、同業者の方々とも現場の工夫や学びを共有しています。発信だけでなく、いただいた反応を改善に活かすことで、双方向の交流を実現しています。SNS は単なる広報手段にとどまらず、介護業界における知見交換の場として機能しており、その可能性を積極的に活かしています。

博純苑は、経営刷新を追い風に、チームワークと情報発信を両輪として介護の質を高める努力を続けています。これからも地域に根ざした施設として、新しい時代の福祉ヴィジョンに向けて挑戦を続けてまいります。



こすもぴあ

「利用者様主体」を理念に掲げ、お受け入れから最期のその時まで、ご本人およびご家族様のご意向に合わせ、多職種協同し連携を図り日常生活の支援を行っております。

当施設は老健の特性でもある在宅復帰支援に注力し日頃の関係性を築き、在宅復帰に向けた事前相談は勿論のこと、自宅訪問や在宅サービスの選定相談、ケアマネジャーを含めたチーム形成のお手伝いもさせていただきます。

また、施設の特性だけでなく、平成5年開設からの老舗であることより、様々なノウハウを備えております。持ち味のひとつとして、母体である大久保病院との医療連携を図り、医療依存を要する方への対応（透析・吸引・インスリン・経管栄養・在宅酸素・人工呼吸器（NPPV））等も行っております。又、在宅生活継続が困難となってしまう場合の緊急入所調整、大部屋を活用した生活保護受給の方のお受け入れに至るまで、柔軟に臨機応変な対応が可能となっております。

さらに、短期入所療養介護（ショートステイ）や通所リハビリテーション（通いサービス）もございます。ニーズや需要に合わせ、どのような状況下であっても、ご利用者様ご自身が「生活の主体者」であり続けられる為の支援を対応させていただきます。



最後に、長きに渡り地域の皆様方のご支援を受け、これまで運営を続けることが出来ました。

この感謝の気持ちとこれまで培ってきたノウハウの還元を最大限に発揮すべく、令和8年6月に新建屋に移転いたします。（場所は、老健「はあもにか」の裏手となります）

今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ホームページ URL
<http://kyoueikai-fukushi.jp/>



つくばリハビリテーションセンター

つくばリハビリテーションセンターは、入所（100床※ショートを含む）、通所リハビリ（定員40人）で運営しており、筑波山麓に位置しつくば研究学園都市との環境の中で古き良きものと新しきよきものとの融合があり、住みやすく、向上心を育む環境にあります。

当施設は、開設当初から「個人の尊厳」を大切にケアに従事してきました。高齢者が社会の中で「臆せず人と接するにはどうしたらよいか」を考え、基本的ケアの口腔ケアを食後3回毎日の日課にすることが、「人とのふれあいを臆せず出来る」と考え、開設から継続しております。また、リハビリスタッフの力強いパワーもあって、重度要介護の方が在宅復帰して、通所リハビリを利用されるようになってきました。一人ひとりの方に丁寧に対応させて頂く事で、職員個々のやりがいや向上心に繋がっております。

昨年イベント『敬老会』では日頃の敬意と感謝の気持ちを込めて皆さまのご長寿をお祝いし、心温まるひとときをご用意いたしました。

当日は、日本舞踊の優雅な舞にうっとりされ、来場された方の中には踊り手の方と旧知の仲で懐かしそうにお話しされる場面もありました。皆さまと願いを込めて作ったお守りも一つひとつが素敵な作品に仕上がりました。

これからも、皆さまが健康で穏やかに過ごせるよう職員一同心を込めて支えてまいります。



ホームページ URL
<https://i-kenyukai.jp/>



そよかぜ

提供サービス

1. 入所・ショートステイ (SS)

要介護1～5の介護認定を受けている方、SSは要支援1、2と要介護1～5の介護認定を



受けている方がご利用いただけます。ご利用者が個々の能力に応じて自立した生活を送っていただけるよう他職種が連携し、ご利用者様一人ひとりに合わせた医療・福祉サービスを提供します。

2. 通所リハビリテーション

医師の指示のもと、リハビリ専門職（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）による身体機能及び日常生活動作能力の維持・回復を目的としたリハビリテーションのほか、看護師

や介護福祉士が食事や入浴・健康チェックなど自宅での生活を続ける上で必要となる援助を日帰りで提供します。

要介護1～5の認定を受けている方は『通所リハビリテーション』を要支援1、2の認定を受けている方は『介護予防通所リハビリテーション』をご利用いただけます。

3. 訪問リハビリテーション

今までできていたことができなくなってきた・退院して自宅での生活に不安がある・介護の仕方が分からなくて心配など、困っている事はありませんか？

訪問リハビリテーションでは、ご利用者様の生活の場にお伺いして、安心・安全にその人らしい在宅生活が継続できるように、心身機能の維持・向上、日常生活の自立、趣味や役割の再獲得・継続ができるよう支援いたします。

『正月お茶会』

顔馴染みのスタッフが振袖、袴着物を装い、正月らしい美味しいお茶・和菓子を振る舞いました。練り歩くスタッフを見ながら、やさしい眼差しで「孫みたいだね～」と話されているのがとても印象的でした。



『貼り絵制作（タイトル籠の背に乗って『希望』）』

3階フロアで龍と雲、2階フロアは全背景を金箔風に、デイフロアでは富士山を担当。素材は各フロアでアイデアを出して制作しました。各フロアともご利用者様、職員アイデアを出し見事に完成することができました。

タイトルはデイケアのご利用者様から考えて頂き決定しました。タイトルの由来は、「今年は龍の年、上昇する年でもあり、そよかぜでリハビリに励み、私自身も体が元気で上がっていけるように、もっと健康で生き生きできるように！」との願いを込めて、このタイトルとなりました。皆様口々にとても力強い、縁起の良い壁画だと、参加できて良い思い出になりましたと笑顔で褒めて頂いたのがとても心に残っています。

この壁画に携わった皆様のご協力に感謝しています。有難うございました。



ホームページ URL
<https://soyokaze.gakuen-hospital.or.jp>

茨城県介護老人保健施設協会会員一覧

番号	施設名	所在地	電話番号	番号	施設名	所在地	電話番号
1	おはよう館	北茨城市磯原町磯原字前大沢1919-4	0293-44-0088	1	さざんか荘	桜川市亀岡992	0296-76-2021
2	ひだまり倶楽部	北茨城市磯原町磯原2-305	0293-30-1710	2	協和ヘルシーセンター	筑西市門井1669-2	0296-57-6030
3	博 純 苑	高萩市大字秋山625	0293-23-2900	3	ごぎょうの里	筑西市小林467-1	0296-25-5710
4	ノ ア	高萩市高浜町3丁目154-1	0293-24-2100	4	梨 花 苑	筑西市木戸348	0296-37-4810
5	さくら日立	日立市城南町1-1-11	0294-22-8811	5	ルーエしもつま	下妻市江1832	0296-44-8000
6	日立南ヘルシーセンター	日立市大みか町6-17-1	0294-52-6825	6	寿 桂 苑	坂東市吾掛4527-1	0297-44-2345
7	シニア健康センターしおさい	日立市国分町3-6-1	0294-34-6611	7	青嵐荘ケア・アシスタンス	古河市上大野703-1	0280-98-2711
8	くじらヶ丘	常陸太田市田渡町855-1	0294-70-2611	8	平 成 園	古河市旭町1-17-39	0280-31-5998
9	大宮フロイデハイム	常陸大宮市上町318-1	0295-53-1000	9	あんしん	結城市大字結城字健田12744	0296-33-0880
10	温泉リハビリセンター虹の丘	久慈郡大子町大字矢田93-1	0295-72-6331	10	生きいき倶楽部	結城市大字結城9143-1	0296-20-8666
11	ひたちの森ハピネス	日立市十王町伊師725-1	0294-20-6699	11	マカベシルバートピア	桜川市真壁町東山田1945	0296-54-2800
12	やすらぎ	久慈郡大子町大字888	0295-72-6622	12	境町メディカルピクニック	猿島郡境町塚崎2555-1	0280-81-1055
13	プラタナスの丘	常陸大宮市宇留野3109	0295-54-1150	13	しろかね	下妻市下栗1217	0296-30-1811
14	田尻ヶ丘ヘルシーケア	日立市田尻町2-8-11	0294-43-6343	14	さくらがわ	桜川市東飯田659	0296-20-6071
1	サンライズ湊	ひたちなか市阿字ヶ浦町字原1406-1	029-265-8711	15	まくらがの郷	古河市東本町4-2-2	0280-33-1234
2	勝 田	ひたちなか市中根5125-2	029-276-3111	16	きねぶち	坂東市長谷989-5	0297-47-3333
3	みなと苑	ひたちなか市幸町16-1	029-263-0655	17	けやきの舎	古河市仁連601	0280-77-3333
4	いちご苑	ひたちなか市世野町1-3-20	029-271-1750	18	すばる	結城市大字結城10780	0296-21-2088
5	フェニックス那珂	那珂市飯田1733-1	029-298-8787	19	夢彩の舎	猿島郡境町大字若林2269-1	0280-33-7300
6	ライプリーライフ「那珂」	那珂市菅谷605-2	029-295-6835	20	プレミエール元気館筑西	筑西市古都554-3	0296-57-7000
7	きんもくせい	東茨城郡城里町石塚1223-1	029-288-7221	1	シルバーケア土浦	土浦市木田余4606	029-826-7021
8	はあもにか	水戸市石川4丁目4039-26	029-254-5777	2	ひかり	土浦市右朝1113-1	029-843-3321
9	こすもびあ	水戸市石川4-4027	029-252-4777	3	アリエッタ	つくば市北条1174	029-867-1182
10	くるみ館	水戸市河和田町3335-1	029-255-4774	4	つくばリハビリテーションセンター	つくば市大首根3681	029-864-8300
11	ナーシングホームかたくり	水戸市河和田町4516-1	029-255-5222	5	そよかぜ	つくば市上横場2573-1	029-836-0517
12	みがわ	水戸市見川町2131-105	029-305-6868	6	「豊 浦」	つくば市大字神部2013-1	029-850-7111
13	つねづみ	水戸市大塚町字小山2-14	029-247-6250	7	つくばケアセンター	つくば市妻76	029-877-1313
14	つまさと	水戸市有賀町2228	029-259-7677	8	なでしこ	つくば市水守2228-2	029-864-6565
15	エバークリーン	東茨城郡茨城町若宮字向ヒ393-1	029-293-9460	9	ゴーエン美浦	福敷郡美浦村宮地678	029-885-5522
16	レイクヒルひぬま	東茨城郡茨城町下石崎2324	029-240-8120	10	ケアセンター阿見	福敷郡阿見町若菜2957-4	029-889-1180
17	おおあらい	東茨城郡大洗町大貫町1212-11	029-267-1331	11	スーペリア360	福敷郡阿見町荒川本郷2033-508	029-830-5300
18	カーサ・ピアンしろさと	東茨城郡城里町阿波山原602	029-240-9595	12	セントラルゆうあい	牛久市柏田町1590-3	029-872-8833
19	ラプラス津田	ひたちなか市津田3728	029-222-4186	13	涼 風 苑	龍ヶ崎市京原塚町3689	0297-63-0008
20	プロスペクトガーデンひたちなか	ひたちなか市高野字柏野2455-1	029-354-3210	14	サンライフ宗仁会	取手市岡1471	0297-85-8743
21	シルバービレッジ	笠間市南小泉977-1	0296-78-2211	15	取手市介護老人保健施設緑寿荘	取手市野々井1926-8	0297-78-9100
22	笠間シルバーケアセンター・パル	笠間市来栖255-1	0296-70-1185	16	はあとびあ	取手市井野253	0297-74-3335
23	あたごナーシングピラ	笠間市土師1080-1	0299-37-6511	17	けんちの苑水海道	常総市豊岡町丙3264	0297-24-5511
24	すみれ	笠間市石井2045	0296-70-0035	18	春 秋 園	牛久市猪子町891-2	029-870-3100
25	はなみずき	水戸市東原3丁目2-8	029-303-3501	19	けやきの郷	龍ヶ崎市若柴町字沖餅1741-1	0297-61-5133
26	桜の郷敬愛の杜	東茨城郡茨城町桜の郷1000-2	029-353-6581	20	プレミエール元気館	つくば市谷田部6107-1	029-838-1919
1	鹿 野 苑	鹿嶋市宮津台188-17	0299-83-7311	21	ホワイトハウス千代田	かずみがうら市東野寺495-2	0299-23-1133
2	ばんなん白光園	神栖市賀2148	0299-93-1162	22	いなしきの郷	福敷市佐原組新田1378-1	0299-79-3811
3	シオン	神栖市土合本町2-9809-126	0479-48-1888	23	プエプロ稲敷	福敷市狸川11	0297-87-7511
4	フロンティア銚田春の場所	銚田市柏原985-1	0291-32-5408	24	もえぎ野	北相馬郡利根町もえぎ野台1丁目-8	0297-84-6081
5	リヒトハウス北浦	行方市繁昌1712-1	0291-35-0471	25	ネオテラス宗仁会	取手市岡1493	0297-85-8341
6	みのり苑	小美玉市橋場美21	0299-48-3556	26	ひまわり	つくば市高崎1008	029-871-5749
7	八郷プロバンス	石岡市瓦谷766-28	0299-44-3213	27	アイケア	守谷市小山318-5	0297-38-6767
8	サングリーンやさと	石岡市小倉443-1	0299-43-3120	28	セントラル土浦	土浦市真鍋新町12-10	029-893-6100
9	コミュニティケアセンター縦山	銚田市横山497	0291-37-3850	29	ピオレア	龍ヶ崎市宇野原1360-1	0297-85-5111
10	あいあい	石岡市東石岡4丁目1-38	0299-28-3838	30	セントラルわかたけ阿見	福敷郡阿見町阿見5050-12	029-875-3340
11	サン・テレーズ	小美玉市栗又四ヶ1752-1	0299-37-1115				
12	かすみがうら	行方市若海793-5	0299-55-0122				
13	ウイケア	石岡市行里川12951-1	0299-56-2533				
14	小美玉敬愛の杜	小美玉市中台148	0299-56-5181				

一 編集後記

○今回の表紙を飾るのは常陸太田市の龍神峡の春の風景です。竜神峡の澄み渡る風と自由に泳ぎ回るこいのぼりが青空に映えます。近年は全国的にも知られるようになり、大勢のみなさんが雄大で爽やかなこの地を訪れるようになりました。

発行所／一般社団法人 茨城県介護老人保健施設協会
 発行人／プロスペクトガーデンひたちなか 森田 隆



一般社団法人
 茨城県介護老人保健施設協会
 ホームページ

編集人／つくばリハビリテーションセンター 市 原 健 一
 編 集／鹿野苑 橋 本 有 治
 ひだまり倶楽部 瀧 慶
 ウイケア 岩 瀬 剛
 事務局／老健かすみがうら
 印 刷／(株)横山印刷